

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称 施策I-2-1 売れる農林水産品・加工品づくり

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 農産園芸課長 森上 浩平 電話番号 0852-22-5123

事務事業の名称	農業環境対策事業	
目的	(1) 対象	農家・農薬販売者・使用者
	(2) 意図	○病害虫の発生を的確に把握することで、病害虫発生の予防・拡大防止に努める。 ○農薬の適正販売・使用の確保を推進することにより、農業生産の安定、県民の健康保護及び生活環境の保全を図る。
事業概要	○農作物への有害な病害虫の発生を未然に防ぐため、農家に対して、発生予察情報を提供する。 ○農薬の適正販売・使用を確保するため、販売者・使用者に対して、指導・啓発を行う。	

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	農業の安全使用・管理を推進する指導者の人数	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			式・定義	農薬管理指導士の認定者数	目標値		759.00	768.00	
			実績値	750.00	747.00	788.00	789.00		
			達成率		98.40	102.60	101.60		%
指標名	式・定義	農薬管理指導士の認定者数	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		0.00	0.00			
			実績値	0.00	0.00	0.00			
			達成率		0.00	0.00			%

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	5,667	6,017
うち一般財源(千円)	1,419	1,665

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

○主要病害虫の発生時期や発生量を取りまとめた「病害虫発生予察情報」を8回発表し、また、特に発生が多い病害については「注意報」を2回発表した。いずれもメールまたはファクシミリにより関係先へ送信した。
○農業の安全使用・管理を推進する指導者を育成するため、農業管理指導士認定研修を実施し、新たに33名の指導士を認定した。
○病害虫の効果的な防除や農薬の適正使用を図るため、26年4月からインターネットを活用した「農業情報検索システム」の運用を開始した。
○26年度に農薬の新たな安全性評価基準として短期暴露評価の考え方が導入され、一部農薬の使用方法が変更になった。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

○県内全域で病害虫の発生予察を行った結果、農作物の生産・出荷に大きな影響を与える被害の発生はなかった。
○「農業情報検索システム」の運用により、最新情報を迅速に提供することが可能となった。
○短期暴露評価の導入による、農薬の使用方法の変更については、HPや関係団体への文書による周知を図ったところ、団体に所属している農薬使用者には理解が進みつつある。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

生産者団体に属さない農薬使用者には、短期暴露評価を踏まえた農薬の使用方法の理解が十分浸透していない。

②困っている状況が発生している「原因」

生産者団体に属さない農薬使用者には、県のHPや農薬販売店を通じて情報提供している。農薬使用者にとっては販売店が情報の入手先として最も期待されることだが、販売店により手段や情報量に差があるものと考えられる。

③原因を解消するための「課題」

生産者団体に属さないが、農産物の販売実績がある農薬使用者の把握が必要。そうした農薬使用者に対しては情報伝達手段がないため、県が情報提供するにあたり支障がある。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

○生産者団体に属さない農薬使用者の把握と、対象農家に応じた情報提供の検討（農薬販売者向け情報提供強化、直売所等への啓発—短期暴露評価を踏まえた農薬の使用方法を想定）
○有害病害虫の発生防止を目的とした病害虫の発生予察の継続。
○農業の最新情報の迅速な提供を目的とした「農業情報検索システム」の継続。
○農薬の安全使用・管理を推進する指導者（農業管理指導士）の育成の継続。

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）